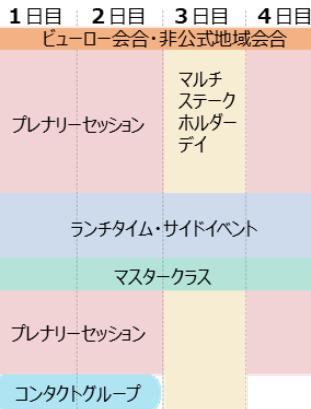


- 第1回化学物質に関するグローバル枠組み（GFC）に関する公開作業部会が、ウルグアイ・プンタデルエステにおいて、2025年6月24日から27日の日程で開催された。**2023年のGFC採択後初の公式国際会合**であり、UNEP関連組織や各国政府組織の他に多様な主体が参加し、2026年の第1回国際会議へ向けた幅広い議論が行われた。

概要



- 各国から600人以上参加。**日本からは、環境省と経産省から4名が参加**：環境省（高木水銀国際室長、黒田補佐、新道調査員）/経産省（河内補佐）
- プレナリーセッションでは、ICCM5で採択された決議に沿って設定された議題（全9議題）の議論が行われた。また、GFC実施アレンジメントや新規政策課題/懸念課題についてはコンタクトグループが設置され、より深化した議論がなされた。
- この他、ランチタイム・サイドイベントや特定事項に焦点を当てたマスタークラスが連日ハイブリッド方式で開催された。第3日目のマルチステークホルダーデイでは、分野横断的な論点（化学物質情報の透明性や情報開示、ケミカルフットプリント）を取り上げた情報交換が行われ、また、電機・繊維・ヘルスケア業界でのGFC実施プログラムについてのパネルディスカッションが行われた。

日本の貢献



【引用】IISD

- **アジア太平洋地域フォーカルポイントとして**：会期中毎朝行わるビューロー会合へ出席し、AP地域会合を先導・意見取りまとめ役を担った。
- プレナリーセッション議題3(h)にて、「**測定構造と指標**」に関する臨時部会の共同議長を務める黒田補佐から、これまでの作業状況の進捗状況が報告され、各国から支持歓迎のコメントが寄せられた。また、インフォーマル会合では共同ファシリテーターとして、国際会議を目指した今後の進め方に関する各国からの意見を取りまとめた。
- **本年4月に公開した「GFC国内実施計画」をパネルディスカッションにて紹介**し、また、策定プロセスでの関連省庁連絡会議や政策対話の重要性についてプレナリーセッションにて発言した。